

図書館をもつと身近に



1階には主に幼児・児童向けの図書が並んでいます。畳の読書スペースは子どもたちのお気に入りの場所になりそうです

一昨年の東日本大震災以降閉館していた「鮫川村図書館」の一部が新しくなり、四月十六日に再オープンしました。
今月号では、リニューアルした図書館を紹介するとともに、村民の皆さんにさらに図書館を利用していただくために、図書館や読書の魅力などをインタビューを交えてお伝えします。

リニューアルした図書館 読書・学習環境が充実

平成二十一年、鮫川村図書館は耐震診断の結果、建物の一部に耐震力が不十分な箇所があることが判明し、耐震補強工事を検討していました。そのような中、平成二十三年三月十一日に発生した東日本大震災により階段部分に大きな亀裂が生じ、図書貸し出し業務を一時的に村歴史民俗資料館に移設。平成二十四年度に改修工事が完了し、四月十六日の開館を迎えました。
耐震面が強化されたことはもちろん、「館山を眺めながら本が読める」をコンセプトに設計されたリニューアル部分は、大きな窓と広々とした展望デッキ

によって開放的で鮫川村の自然を感じられる空間となりました。また、二階の学習スペースも広くなったことで、読書環境だけでなく学習環境も充実しました。
また、多くの人に図書館を利用してもらうために定期的に催しを計画しています。小学生を対象とした「おはなしの森」は五月から毎週水曜日の午後四時から実施。読み聞かせや手遊び、紙芝居などを行います。さらに、幼児とその保護者を対象とした「親子読書教室」を六月から毎月一回実施し、本に触れて親しむ機会を提供します。

外観



以前よりも広くなった玄関や駐車場。多くの人に利用してもらうために、ゆとりのある空間、さらに利用しやすい施設へと生まれ変わりました。

学習



2階の本棚には、実用書が並んでいます。また、学習机もあり落ち着いて学習できる空間になっています。大きな窓からは館山を望むことができます。

体感



1階奥にはパペットシアター、2階奥には村の四季や動植物を紹介する展示物があります。読書以外にも親子で楽しめる工夫がたくさんあります。

利用時間 午前9時30分～午後6時
休館日 毎週月曜日、祝日
12月29日～1月3日
所在地 大字赤坂中野字新宿64番地1
☎49-1150（ファックス兼）
利用方法 図書を借りる場合は、受付にて図書貸出交付申請書に必要事項を記載し、図書貸出券の交付を受けてください。また、学習などで利用する場合は、係員に声をかけてください。

INTERVIEW



奥貫 洋 村教育長

子どもの活字離れが急激に進み、読書に力を入れて取り組まなければならない状況になっています。子どもの時期の読書は重要で、乳幼児では、親と一緒に絵本を読むことで親子の会話をす

るきっかけになります。また、この時期は人格形成にとつて重要な、絵本から受ける刺激や親子の対話などは、乳幼児の心の栄養になります。さらに、小学生から高校生にかけての時期では、読書の楽しさを感じることもできるほかに、「読書をしよ」と自ら動くことで行動力が身につくことにつながります。子どものころから読書習慣を身につけることは重要で、そのためには家庭の読書環境や家族の協力が重要です。しかし、そればかりではなく図書館を大い

に活用してほしいと思います。家族で図書館に足を運んでもらいたいです。そして、子どもが読みたい本を選んで親の膝の上で読み聞かせをする、絵本を通して会話をする時間を少しでも多く作ってほしいです。また、図書館は多くの人が集まる場所です。読書や勉強をするためだけではなく、人と接する機会を作り、コミュニケーションの場としての役割を果たすことでしょう。「堅苦しい」というイメージが先行しがちな図書館ですが、子どもから高齢者までが気軽に集まれる、居心地が良い空間を提供したいと思

読書や勉強のためだけでなく、子どもから高齢者までが気軽に集まれる場所に

図書館をとりまく声

勉強に集中できる場所

夕方は下校した小学生が集まり、少しにぎやかになる図書館。鮫川小4年生の土手内吉輝さん、鈴木修希さん、蛭田樹璃さんは陸上の練習を終えて迎えを待つ間、宿題をしようとやってきました。

「家で宿題をやらなくていいように待っている間にやっています。家だとみんなとしゃべっちゃうから、宿題がなかなか進まないんです。図書館だと集中してできます」と、学習環境としても利用されています。一階の畳スペースが子どもたちのお気に入りの場所になっているようです。

秋まで続く陸上の練習。「これからも練習が終わったら、宿題をやるために図書館に来たいと思います」。夏休みなどの長期の休みには、さらに子どもたちの利用が多くなりそうです。



鮫川小4年
土手内吉輝さん 鈴木修希さん
蛭田樹璃さん (写真左から)

親子で読み聞かせを聞くことでほっと一息つける時間になる

本の読み聞かせボランティアをしている「おはなしポケット」。図書館で催す「おはなしの森」、「親子読書教室」や小・中学校で活躍しています。

代表を務める須藤幸子さんは活動の中で「親子読書教室に参加したお母さんの膝の上に子どもがちょこんと座り聞いている姿を見て、微笑ましい気持ちで本を読んでいます。普段は忙しいお母さんと子どもがほっと一息つける時間になっているんだと思います」と笑みがこぼれます。



市川真澄さん / 西山字水口

月に数回は図書館を利用しているという市川真澄さん。娘の愛依ちゃんと一緒に「親子読書教室」にも参加。教室では、読み聞かせのほかに工作も行いました。

「工作も楽しみの一つだったようで、そこから娘も本に興味を持つようになって、教室が良いきっかけ作りになったと思います」。今では、愛依ちゃんも自分の図書貸出券を作りお姫様などのかわいい本を借りて読んでいます。

また、若い子どもがいる母親たちの交流の場としても利用できるのではないかと話します。「小さい子どもを連れて遠くまで出かけるのは大変ですから、図書館が母親同士の交流の場、憩いの場になるといいですね。子どもたちが本に触れる機会にもなると思います」



おはなしポケット
須藤幸子代表 / 赤坂東野字遠ヶ竜

「絵本には対象年齢はありません。子どもから高齢者までが楽しめるものです。ぜひ、お子さんと一緒に読み聞かせを聴いて息抜きをしてみませんか」と、図書館の催しなどに気軽に参加してほしいと話してくれました。

「特集」 図書館を もつと身近に

〈幼児向け〉
くろくんとなぞのおばけ
なかやみわ著 / 童心社
おばけのしわざ? つぎつぎとクレヨンたちが連れ去られ、とうとうくろくんだけに。足あとをどんだんたどっていくと…。なぞのおばけのしょうたいは!



〈小学低学年向け〉
ぼくだけ してる
もりやまみやこ著
あかね書房
くまの子は船を見ました。うさぎの子はバスにのりました。きつねの子はどちらもしりません…。でも「ぼくだけしてる」ことに出会います。



〈小学中学年向け〉
ぼくのママはうんてんし
おおともやすお著
福音館書店
ママはうんてんし、パパはかんごし、保育園に通うのぞむと妹。ママの誕生日に旗をふってお祝いしようと思いついたけれど、雨が降ってきて…



〈小学高学年向け〉
夜明けの落語
みうらかれん著 / 講談社
みんなの前で話すのがなによりも苦手な暁音。日直のスピーチのとき、落語好きの三島君に助けられ、落語に引き込まれていく。少しずつ勇気がわいてくるお話。



子どもたちに
おすすめの
一冊を紹介